
あの時の感触

グラさん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

あの時の感触

【Nコード】

N3878Y

【作者名】

グラさん

【あらすじ】

これは実際にあった、俺の不幸な物語

俺が中学二年のときだ。

それは突然に訪れた。まさかあんなことがあるとは俺自身予想を全くしていなかった。

それは放課後の居残りで技術の製作をしていたときに訪れた。

俺は作るのが遅く最後まで懸命に頑張つて、製作を続けていた。

そこには、一人のハーフの女子生徒がいた。もちろん俺と同じく彼女も製作をしていた。彼女とは面識があり、まあ中は・・・良かったのだろうか・・・

とりあえず出会いがしらのあいさつにビンタしてくるくらいのやつだったから、よくわからない。

そんなことより、話の続き。

まあ技術室に俺と彼女は残された。まあ、みんな帰っていたのだから俺も彼女もきりのいいところで終わらせて帰る支度をする。

「おい！」

彼女が話しかける

「なんだよ!？」

俺も応答する

「ちよつとこつちに来て」

俺は言われるままそっちの方向に向かって歩き出す。そして彼女の前で止まる。

バチンッ!!

いきなりビンタをされる

「何すんだよ!!!」

「別に♪」

バチンッバチンッ

その言葉の後に往復ビンタが飛ぶ。

俺も切れる。だが、俺は女の人には殴れない体質だった。なので・・・

コチヨコチヨ

脇腹をくすぐって、応戦する。

向こうも同じく怒り出す。柔道のような組合が始まる。

だが、俺は柔道系は苦手だ。倒れはしなかったが、押し飛ばされる。

「もうやめるよ・・・」

へとへとだった。

だが、やめるわけもなかった。俺の首を締めだした。

「ストップウー！」

必死にもがく。だが、離れない。そのまま、俺は床に倒される。

「ぐはっ！」

そのまま床に、押し付けられる。

彼女の腕に手を当て必死にもがく。だが、離れない。だんだん意識が遠くなる。

（や、やばい・・・
意識が・・・）

薄れ行く意識の中、脇腹が目に入る。

（もう一回脇腹をくすぐれば・・・）

脇腹に最後の力で手を伸ばす。そのまま脇腹をくすぐり解放！！！！

のはずだった・・・

モミッ

（なんだ、この柔らかい感触）

何か別の部分を触った。よく考えたら首絞めが止まっていた。そして俺は気づいた。

彼女の胸を触っていた。

「きゃあああ！！！！」

「ちよつと待て！！今のはわざとじゃっ」

そんなことも聞かず往復ビンタの連打が俺を襲う。

そのまま俺は床にべたつとついたまま気を失った。

5分後、俺は目覚めた。もちろん彼女はいなかった。

なんとも、不幸な話だった。ほんとに地獄のようなじかんだった。

まあ、あの時の胸の感触だけは・・・よしとしておこうと思うが・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3878y/>

あの時の感触

2011年11月13日20時03分発行